

2017年3月卒業予定者の

就職活動に関する 学生調査

2016年
5月1日状況

内定獲得率 **23.2%**

前年同月に比べ

6.8ポイントのプラス



アイDEM 人と仕事研究所

WEBサイトでは、採用活動の
ヒントとなる情報を発信して
います

<https://apj.aidem.co.jp/>

人と仕事 

 「就職活動に関する学生調査」
「新卒採用に関する企業調査」
学生と企業の「今」がわかります

株式会社アイDEM
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10
アイDEM本社ビル

お問い合わせ
▶ 広報担当 / 望月・栗木 ▶ 調査担当 / 岸川・菊地
☎ 03-5269-8780 ✉ kouhousitu@aidem.co.jp

結 果 概 要

2017 就職活動に関する学生調査
(2016年5月1日状況)

進捗状況

▶現在のステータス

【主な活動】

「面接・試験段階」…………… 53.1%
「内定獲得／就活継続段階」…………… 15.3%
「内定獲得／就活終了段階」…………… 5.5%

【各活動ステータスに到達した学生の割合】

「面接・試験段階」…………… 83.3%
「内定獲得段階」…………… 23.2%
前年同月に比べ、面接・試験段階(前年同月比+8.2ポイント)と内定獲得段階(前年同月比+6.8ポイント)への移行が早い

▶1日の活動時間

「就職活動に費やす時間」は4.5時間で、前回調査(4月1日時点:4.9時間)から0.4時間の減少
「学業に費やす時間」は2.9時間で、前回調査(4月1日時点:2.1時間)から0.8時間の増加

▶会社説明会参加回数

「30回以上」…………… 25.8% 「1~9回」…………… 25.0%
「20~29回」…………… 19.9%
平均19.1回 前回調査(14.4回)から4.7回の増加

▶応募企業数

「20~49社」…………… 31.8% 「1~9社」…………… 28.5%
「10~19社」…………… 27.4%
平均21.6社 前年同月調査(21.5社)とほぼ同じ
前回調査(18.5社)から3.1社の増加

▶エントリーシート・履歴書提出企業数

「10~19社」…………… 35.4% 「20社以上」…………… 22.3%
「5~9社」…………… 22.1%
平均12.5社 前年同月調査(9.0社)より3.5社多い
前回調査(6.4社)から6.1社の大幅な増加

▶面接選考企業数

「5~9社」…………… 31.3% 「10社以上」…………… 23.4%
「3~4社」…………… 22.0%
平均6.4社 前年同月調査(4.5社)より1.9社多い
前回調査(3.5社)から2.9社の増加

▶現在選考中の企業数

「5~9社」…………… 30.6% 「3~4社」…………… 24.2%
「10社以上」…………… 22.2%
平均6.6社 前回調査(5.0社)から1.6社の増加

▶企業への新たな応募予定

「ある」…………… 75.0%
前回調査(84.0%)から、9.0ポイント減少

▶今まで興味がなかった“業界”への応募

「考えている」…………… 53.1%
前回調査(56.3%)から、3.2ポイント減少

▶今まで興味がなかった“職種”への応募

「考えている」…………… 42.1%
前回調査(45.3%)から、3.2ポイント減少

企業選定の志向

▶企業規模に対する志向

「大企業志向」…………… 50.0%
「中小企業志向」…………… 26.2%
「企業の規模は全く意識していない」…………… 23.8%

▶企業選定の際に重視するもの

「重視している」「どちらかと言えば重視している」の計
「会社・社員の雰囲気」…………… 82.6%
「事業内容」…………… 81.2%
「職種」…………… 78.6%

▶第一志望の企業について

【選考の段階】
「エントリー・応募し始めた段階」…………… 35.6%
「面接や試験など、選考を受けている段階」…………… 30.1%

【従業員規模】

「300~999人」… 26.3% 「3,000人以上」… 25.8%

▶就職活動を継続している理由

「第一志望の企業の選考が終了していないから」…………… 57.1%
「他にもっと自分に合う企業があるような気がするから」44.5%

学生の意識

▶“できれば避けたい”選考方法

「グループワーク・グループディスカッション」…………… 44.8%
「グループ面接」… 37.8% 「SPI等の適性検査」… 35.7%

▶“記念受験”や“練習”のために応募した企業はあるか

【記念受験】
「ある」…………… 39.1%

【練習】

「ある」…………… 66.7%

▶「オワハラ」経験の有無

「オワハラ」の経験が「ある」学生は、6.3%
内定獲得状況別では、内定を獲得している学生の11.5%が、「オワハラ」の経験が「ある」と回答

●	調査概要	p. 4
1	就職活動の進捗状況	p. 5
2	企業規模に対する志向	p. 6
3	1日の活動時間	p. 7
4	会社説明会参加回数	p. 8
5	応募企業数	p. 9
6	エントリーシート・履歴書提出企業数	p.10
7	面接選考企業数	p.11
8	現在選考中の企業数	p.12
9	志望業界	p.13
10	志望職種	p.14
11	企業選定の際に重視するもの	p.15
12	企業選定の際に重視するもの<男女別>	p.16
13	企業への新たな応募予定(5月)	p.17
14	第一志望の企業の選考段階	p.18
15	第一志望の企業の従業員規模	p.19
16	就職活動を継続している理由	p.20
17	就職活動終了見込み時期	p.21
18	身につけている社会人基礎力	p.22
19	“できれば避けたい”選考方法	p.23
20	“記念受験”や“練習”のために応募した企業はあるか	p.24
21	「オワハラ」経験の有無	p.25
22	就職活動での不安	p.26

調査概要

調査目的

2016年5月1日時点における就職活動の準備・進捗状況等から、就職活動を行なう学生の実態を明らかにすること

調査対象

2017年3月卒業予定で、民間企業への就職を希望している大学4年生・大学院2年生の男女

調査方法

インターネット調査

調査期間

2016年5月1日～5日

有効回答

672名

「JOBBRASS 新卒」登録学生（338名）、株式会社クロス・マーケティングのアンケートモニター（334名）

※本調査は小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合があります。
 ※「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示しています。

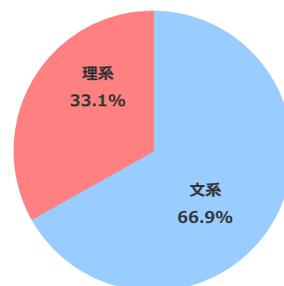
居住地域	回答数	(%)
北海道・東北地方	22	3.3
関東地方	282	42.0
北陸・甲信越地方	16	2.4
東海地方	44	6.5
近畿地方	245	36.5
山陰地方	17	2.5
四国地方	8	1.2
九州地方	38	5.7
合計	672	100.0

専攻	回答数	(%)
文系	498	74.1
理系	174	25.9
合計	672	100.0

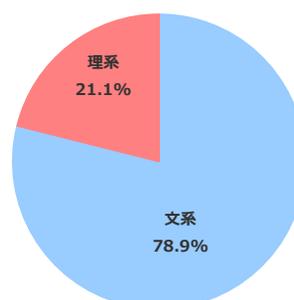
所属サークル	回答数	(%)
文化系	228	33.9
体育会系	157	23.4
イベント系	53	7.9
無所属	234	34.8
合計	672	100.0

性別	回答数	(%)
男性	269	40.0
女性	403	60.0
合計	672	100.0

男性



女性



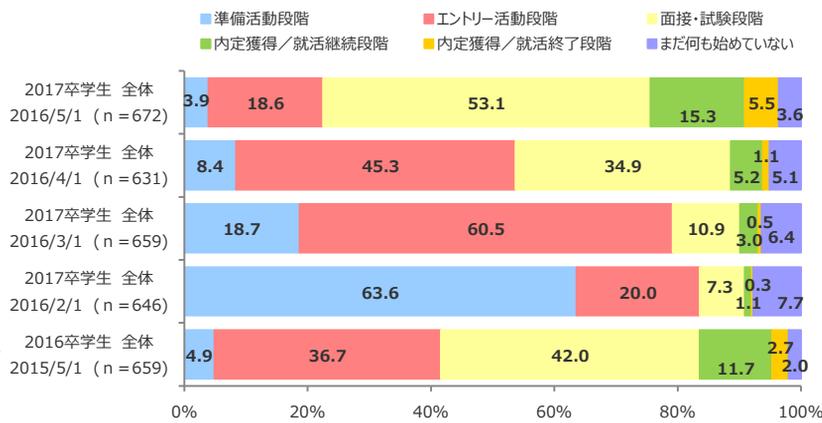
就職活動の進捗状況

学生に、2016年5月1日時点の就職活動において、“現在行なっている<主な活動>”を聞いた。「面接・試験段階」と回答した学生が最も多く53.1%となり、前回調査（2016年4月1日状況、以下前回調査）から18.2ポイントと大幅に増加した。また、「内定獲得／就活継続段階」も前回調査から10.1ポイント増加し、就職活動は本格的な選考、内定獲得へと進んでいる様子がうかがえる（図1.1）。

また、<主な活動>において「準備活動段階」「エントリー活動段階」「面接・試験段階」のいずれかを回答した学生に、<最も選考が進んでいる企業の状況>を聞いた。「エントリー活動段階」は前回調査より16.7ポイント減少し、13.4%となった。一方、「面接・試験段階」と回答した学生は19.2ポイント増加し、79.5%となっている（図1.2）。

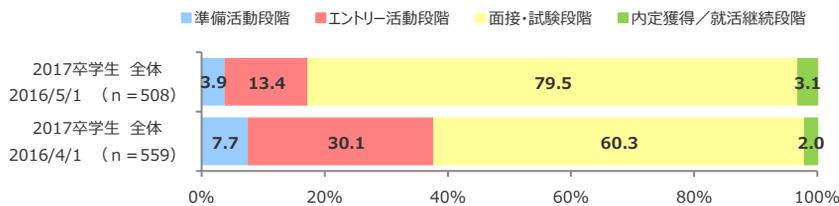
<主な活動> <最も選考が進んでいる企業の状況>を合わせて、実際にどのくらいの学生が、就職活動の各活動ステータスに到達しているかを見た。「準備活動段階」は、調査対象の全学生のうち96.4%、「エントリー活動段階」93.5%、「面接・試験段階」83.3%、「内定獲得段階（“内定獲得／就活継続段階”と“内定獲得／就活終了段階”の計。以下“内定獲得率”）」23.2%となっている。前年同月調査（「2016年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2015年5月1日状況」。以下、前年同月調査）と比較すると、「エントリー活動段階」までは同程度の進捗と言えるが、「面接・試験段階」は8.2ポイント、「内定獲得率」は6.8ポイント増加し、昨年よりも進捗が早い様子がうかがえる（図1.3）。

【図1.1】現在の就職活動のステータス：<主な活動>

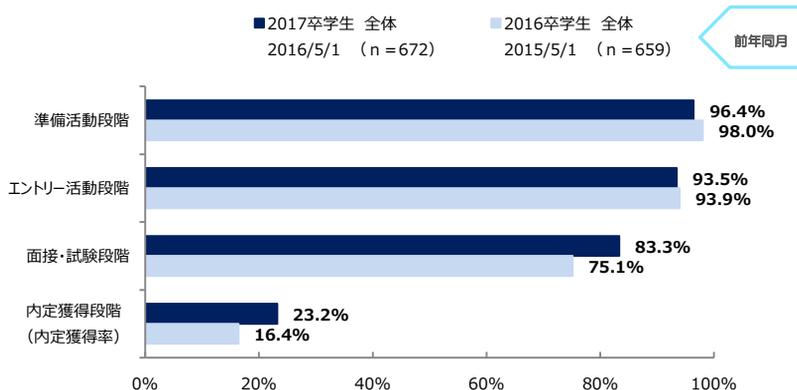


- ◆準備活動段階
就職活動の情報収集や就活ナビサイトへの登録、自己分析や業界研究など企業にエントリーする前の準備をし始めた段階
- ◆エントリー活動段階
説明会やエントリーシートの作成・提出など、企業にエントリー・応募し始めた段階
- ◆面接・試験段階
面接や試験など、主に企業の選考を受けている段階
- ◆内定獲得／就活継続段階
1社以上の内定を獲得したが、就活を継続している段階
- ◆内定獲得／就活終了段階
1社以上の内定を獲得し、就活を終了した段階

【図1.2】現在の就職活動のステータス：<最も選考が進んでいる企業の状況>



【図1.3】各活動ステータスに到達した学生の割合

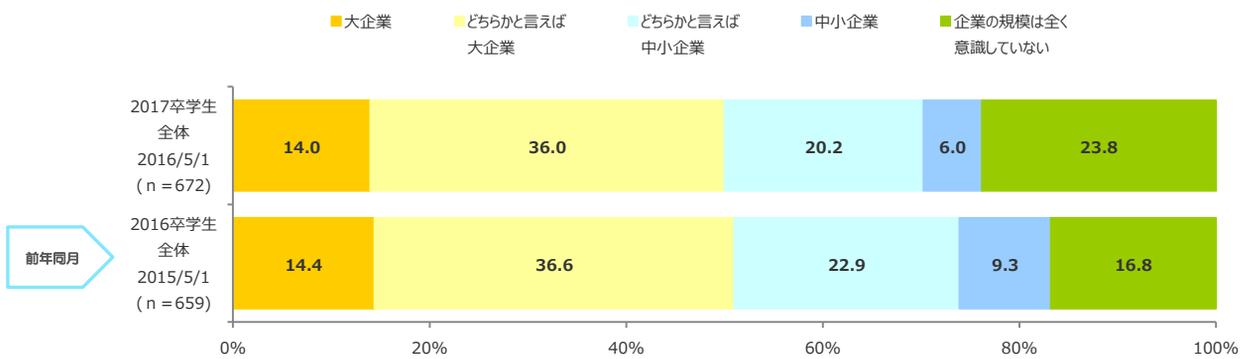


企業規模に対する志向

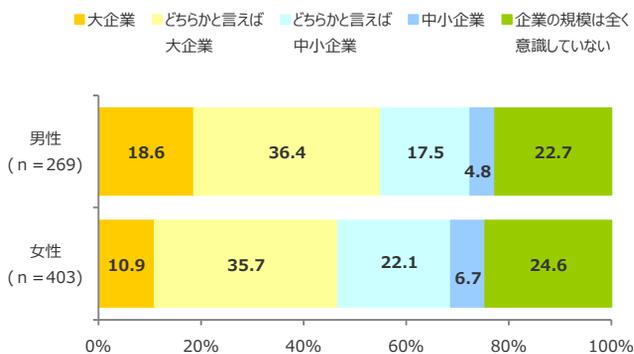
学生に、就職活動を行なうにあたり、大企業と中小企業のどちらを志望する気持ちが強いかを聞くと、「大企業」「どちらかと言えば大企業」を合わせた回答が50.0%に上った。「中小企業」「どちらかと言えば中小企業」と回答した学生は合わせて26.2%、「企業の規模は全く意識していない」学生は23.8%となった。前年同月調査と比較すると、中小企業志向の学生が減少し、企業の規模は全く意識していない学生が増加している（図2.1）。

男女別で見ると、男性は大企業志向が55.0%と、女性の46.6%よりも高い（図2.2）。
文理別で見ると、大企業志向の学生の割合は文系で51.6%、理系で45.4%となった（図2.3）。

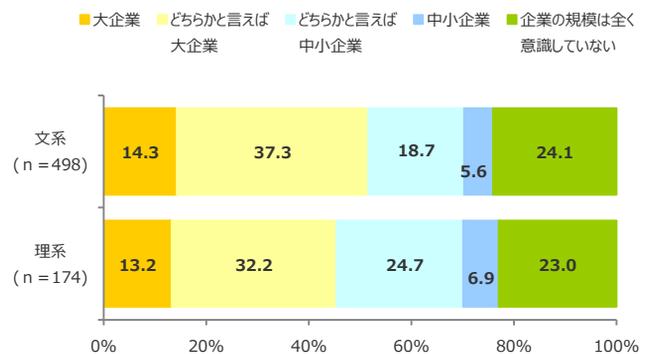
【図2.1】企業規模に対する志向



【図2.2】企業規模に対する志向：男女別



【図2.3】企業規模に対する志向：文理別



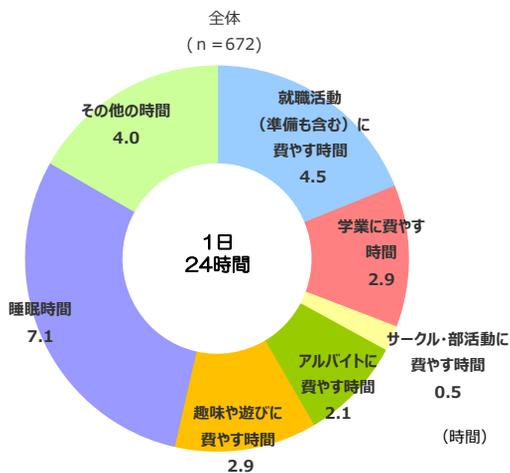
1日の活動時間

学生に、現在1日のうち「就職活動」「学業」「サークル・部活動」「アルバイト」「趣味や遊び」「睡眠」にどのくらいの時間を費やしているかを聞き、平均化した。結果は、「就職活動」4.5時間、「学業」2.9時間、「サークル・部活動」0.5時間、「アルバイト」2.1時間、「趣味や遊び」2.9時間、「睡眠」7.1時間となった（図3.1）。

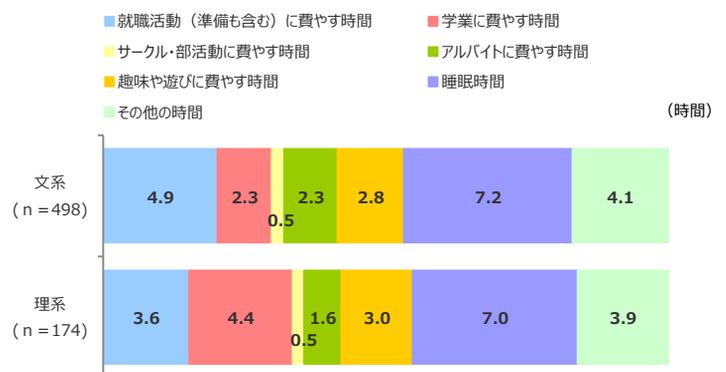
文理別に見ると、理系は「学業」に費やす時間が4.4時間と、文系の2.3時間より2.1時間多い。一方、文系は、「就職活動」に費やす時間が4.9時間で、理系の3.6時間より1.3時間多くなっている（図3.2）。

時系列で見ると、「就職活動」に費やす時間は、前年同月調査よりもやや多く推移している一方で、前回調査と比較すると短くなった。「学業」に費やす時間も、前回調査より増加しており、6月1日の選考活動解禁を前にしつつも、就職活動はやや落ち着いた状況がうかがえる（図3.3）。

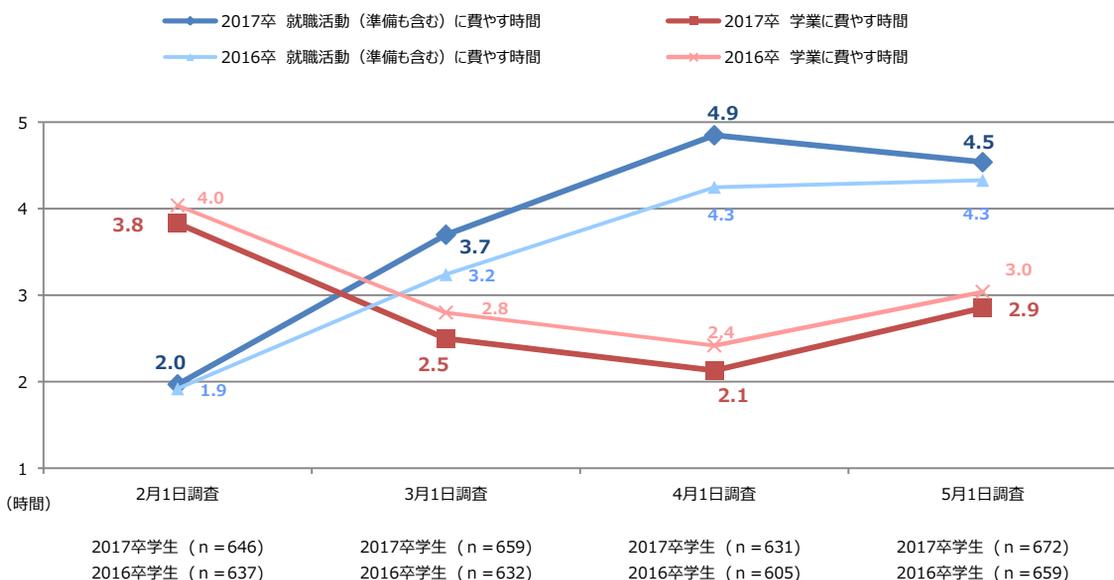
【図3.1】1日の活動時間／平均



【図3.2】1日の活動時間／平均：文理別



【図3.3】1日の活動時間の推移／平均



会社説明会参加回数

「1 就職活動の進捗状況」において、「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、5月1日までに参加した会社説明会の回数の合計を聞いた。結果は、「30回以上」が25.8%と最も多く、続いて「1~9回」が25.0%、「20~29回」19.9%、「10~14回」16.8%、「15~19回」11.0%となった。

平均回数を見ると、男女別では女性が、文理別では文系が、企業規模に対する志向別では大企業志向の学生が参加回数が多くなっている（表4）。

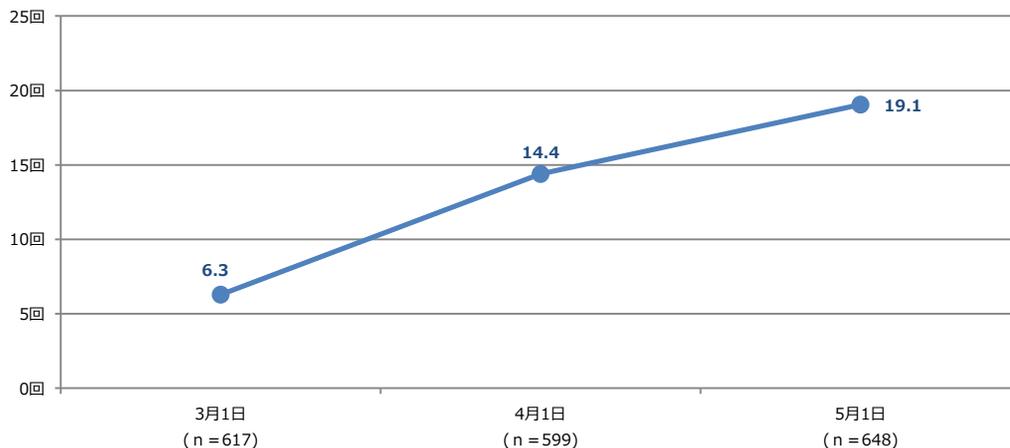
平均回数の推移を見ると、今回調査では19.1回となり、前回調査より4.7回増加した（図4）。

【表4】会社説明会参加回数：属性別

		0回	1~9回	10~14回	15~19回	20~29回	30回以上	平均（回）
			59	51	49	52	60	
			1	1	2	3	4	
			9	5	1	2	9	
			回	回	回	回	回	
全体 (n = 648)		1.5	25.0	16.8	11.0	19.9	25.8	19.1
男女別	男性 (n = 258)	2.3	28.3	16.3	11.2	17.8	24.0	17.8
	女性 (n = 390)	1.0	22.8	17.2	10.8	21.3	26.9	19.9
文理別	文系 (n = 485)	1.6	21.6	15.3	10.9	20.0	30.5	20.9
	理系 (n = 163)	1.2	35.0	21.5	11.0	19.6	11.7	13.7
対する企業規模に志向別	大企業志向 (n = 328)	0.9	18.0	17.1	10.4	19.8	33.8	22.2
	中小企業志向 (n = 173)	0.0	31.2	17.3	12.1	19.7	19.7	16.7
	企業の規模は全く意識していない (n = 147)	4.8	33.3	15.6	10.9	20.4	15.0	14.7
内定獲得状況別	内定あり (n = 156)	0.6	19.9	17.3	9.6	19.9	32.7	22.1
	内定なし (n = 492)	1.8	26.6	16.7	11.4	19.9	23.6	18.1

(%)

【図4】会社説明会参加回数の推移／平均



応募企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでいる学生に対し、5月1日までに選考に応募した企業数を聞いた。結果は、「20~49社」と回答した学生が最も多く、31.8%となった。平均社数を前年同月調査と比較すると、ほぼ同数となっている（表5）。

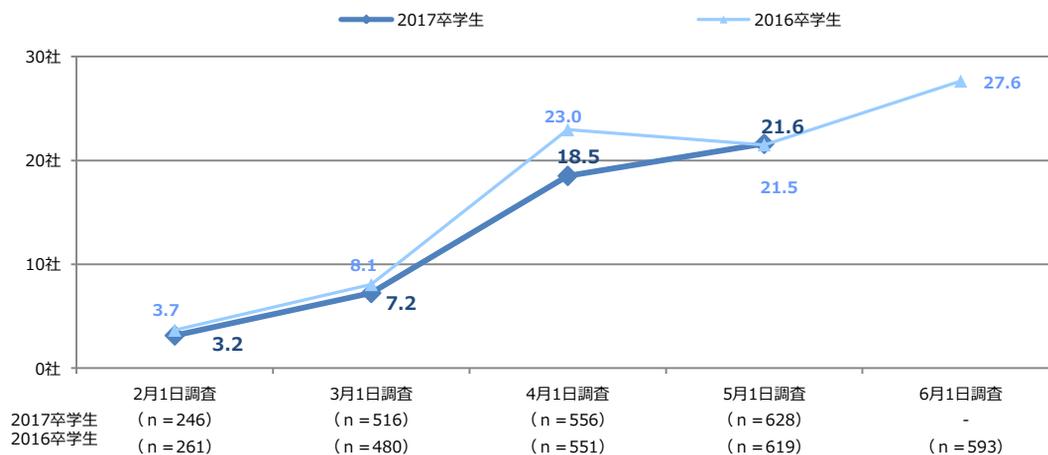
平均社数の推移を見ると、前回調査の18.5社から3.1社増加し、21.6社となった（図5）。

【表5】選考に応募した企業数：属性別

		0社	10~19社	20~29社	30~49社以上	平均(社)	
		n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下					
前年同月		1.4	28.5	27.4	31.8	10.8	21.6
2017卒学生 全体 2016/5/1 (n=628)		3.6	32.8	20.4	29.9	13.4	21.5
男女別	男性 (n=250)	1.6	32.8	26.8	31.2	7.6	18.8
	女性 (n=378)	1.3	25.7	27.8	32.3	13.0	23.4
文理別	文系 (n=472)	1.5	24.2	27.3	34.5	12.5	23.6
	理系 (n=156)	1.3	41.7	27.6	23.7	5.8	15.6
対する企業規模志向別	大企業志向 (n=324)	1.2	20.1	28.7	37.3	12.7	24.4
	中小企業志向 (n=166)	0.6	38.0	26.5	28.3	6.6	17.3
	企業の規模は全く意識していない (n=138)	2.9	37.0	25.4	23.2	11.6	20.1
状況獲得別	内定あり (n=156)	0.0	25.0	31.4	35.3	8.3	21.8
	内定なし (n=472)	1.9	29.7	26.1	30.7	11.7	21.5

(%)

【図5】選考に応募した企業数の推移/平均



6

エントリーシート・履歴書提出企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでいる学生に対し、5月1日までにエントリーシートや履歴書を提出した企業数を聞いた。結果は、「10～19社」と回答した学生が最も多く35.4%、次いで「20社以上」と回答した学生が22.3%となった。

前年同月調査と比較すると、「1～4社」と回答した学生が減少する一方、「10～19社」「20社以上」と回答した学生が増加している（表6）。

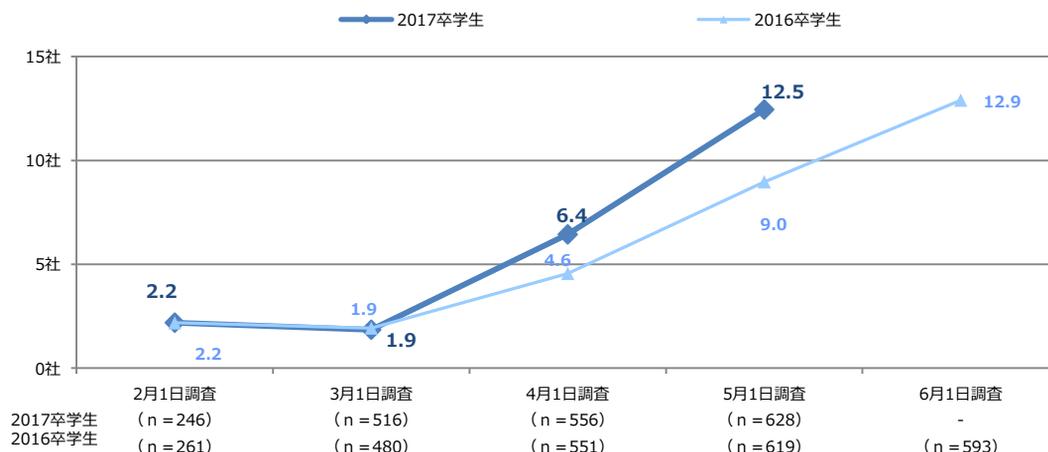
平均社数の推移を見ると、前回調査の6.4社から12.5社へとほぼ倍増している。

昨年と比較すると、今回調査の平均社数（12.5社）は、昨年の6月1日状況（12.9社）とほぼ同値であった。昨年よりも、1カ月分進捗が早いようだ（図6）。

【表6】エントリーシート・履歴書提出企業数：属性別

		0社	1～4社	5～9社	10～19社	20社以上	平均（社）
		<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">n=30以上で</div> <div style="background-color: #FFD700; width: 10px; height: 10px; display: inline-block;"></div> 全体+10pt以上</div> <div style="background-color: #FFFF00; width: 10px; height: 10px; display: inline-block;"></div> 全体+5pt以上					

【図6】エントリーシート・履歴書提出企業数の推移／平均



面接選考企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「面接・試験段階」以降に進んでいる学生に対し、5月1日までに面接の選考（グループワークやグループディスカッションも含む）を受けた企業数を聞いた。結果は、「5～9社」と回答した学生が最も多く31.3%だった。

平均社数を属性別に見ると、男女別では大きな差はなく、文理別では文系の方が多くなっている。企業規模に対する志向別では、中小企業志向の学生が、他の学生よりも平均社数が少ない傾向が見られた（表7）。

平均社数の推移を見ると、前回調査より2.9社増加し、6.4社となった。

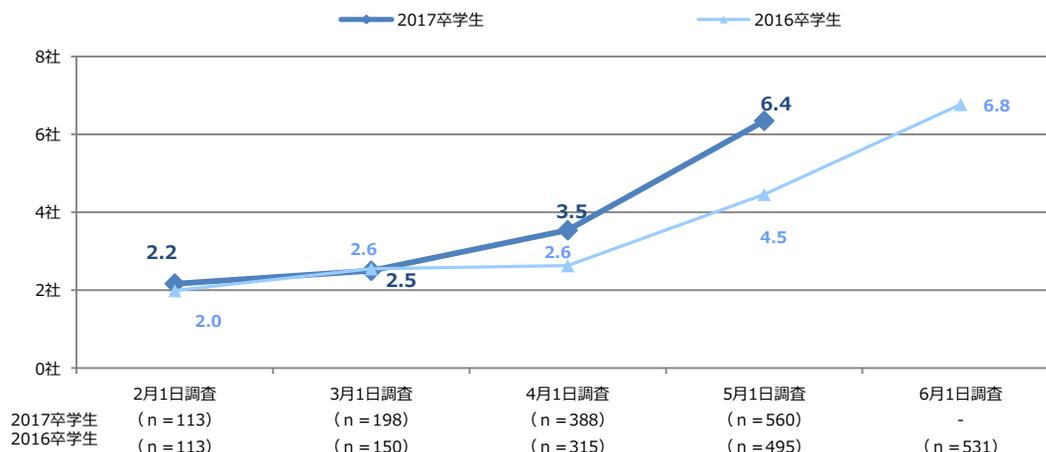
昨年と比較すると、今回調査の平均社数（6.4社）は、昨年の6月1日状況（6.8社）とほぼ同値であった。昨年よりも、1カ月分進捗が早いようだ（図7）。

【表7】面接選考企業数：属性別

		0社	1 ～ 2社	3 ～ 4社	5 ～ 9社	10社以上	平均 (社)
		n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下					
2017卒学生 全体 2016/5/1 (n=560)		3.8	19.6	22.0	31.3	23.4	6.4
前年同月	2016卒学生 全体 2015/5/1 (n=495)	7.3	30.1	22.6	27.9	12.1	4.5
男女別	男性 (n=222)	5.0	19.4	21.6	28.4	25.7	6.5
	女性 (n=338)	3.0	19.8	22.2	33.1	21.9	6.3
文理別	文系 (n=414)	3.1	17.9	19.8	31.6	27.5	6.9
	理系 (n=146)	5.5	24.7	28.1	30.1	11.6	4.8
対する企業規模に 志向別	大企業志向 (n=289)	3.8	18.0	20.4	32.2	25.6	6.6
	中小企業志向 (n=154)	3.2	22.1	26.0	29.9	18.8	5.7
	企業の規模は全く意識していない (n=117)	4.3	20.5	20.5	30.8	23.9	6.5
状況獲得別	内定あり (n=156)	0.0	15.4	15.4	33.3	35.9	8.3
	内定なし (n=404)	5.2	21.3	24.5	30.4	18.6	5.6

(%)

【図7】面接選考企業数の推移／平均



現在選考中の企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでおり、かつ活動を継続している学生に対し、5月1日時点で「選考中」（応募はしているが、選考途中であり最終的な結果が出ていない状態）の企業数を聞いた。最も多かった回答は、「5～9社」30.6%となった。さらに「3～4社」24.2%、「10社以上」22.2%と続く。

平均社数を企業規模に対する志向別に見ると、大企業志向の学生は他の学生に比べ、現在選考中の企業数が多くなっている（表8）。

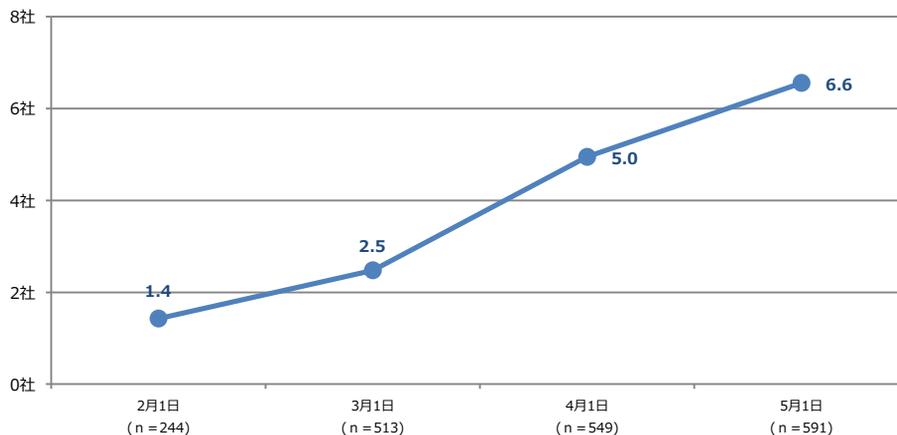
平均社数の推移を見ると、前回調査の5.0社から6.6社へと増加している（図8）。

【表8】現在選考中の企業数：属性別

		0社	1～2社	3～4社	5～9社	10社以上	平均（社）
全体 (n = 591)		5.6	17.4	24.2	30.6	22.2	6.6
男女別	男性 (n = 233)	6.9	20.2	21.9	28.8	22.3	6.7
	女性 (n = 358)	4.7	15.6	25.7	31.8	22.1	6.5
文理別	文系 (n = 449)	5.6	16.3	23.6	30.1	24.5	6.9
	理系 (n = 142)	5.6	21.1	26.1	32.4	14.8	5.6
企業規模に対する志向別	大企業志向 (n = 308)	3.9	14.0	22.1	31.8	28.2	7.7
	中小企業志向 (n = 156)	5.8	22.4	30.1	26.9	14.7	5.0
	企業の規模は全く意識していない (n = 127)	9.4	19.7	22.0	32.3	16.5	5.8
内定獲得状況別	内定あり (n = 119)	4.2	14.3	26.1	33.6	21.8	6.8
	内定なし (n = 472)	5.9	18.2	23.7	29.9	22.2	6.5

(%)

【図8】現在選考中の企業数の推移／平均



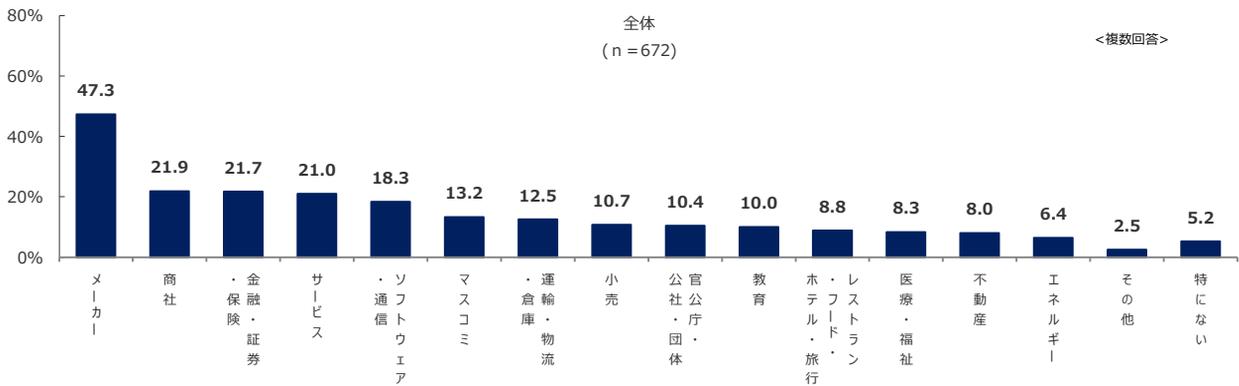
志望業界

学生に、志望業界について聞くと、回答が多かった順に「メーカー」47.3%、「商社」21.9%、「金融・証券・保険」21.7%となった（図9.1）。

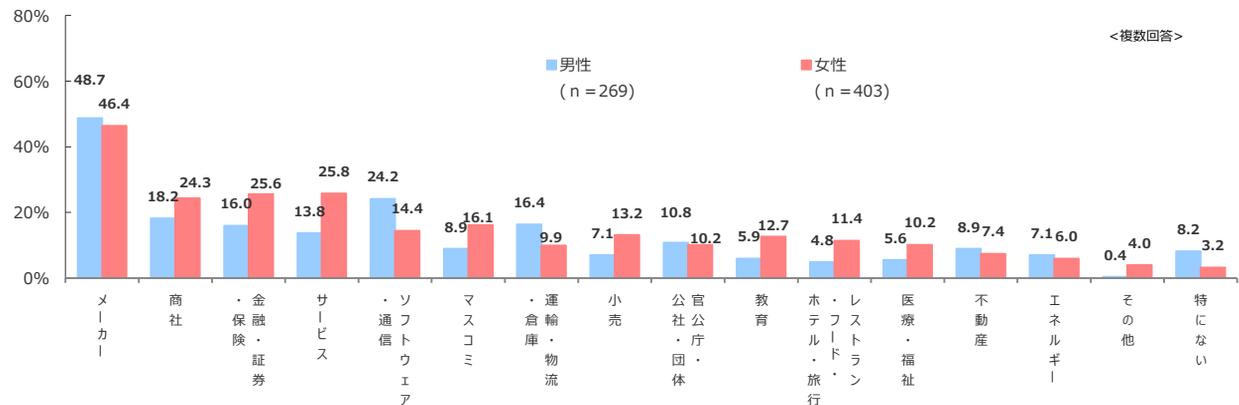
男性では、回答が多い順に「メーカー」「ソフトウェア・通信」「商社」と続く。女性では「メーカー」「サービス」「金融・証券・保険」の順となっている（図9.2）。

文理別に見ると、理系は「メーカー」の志望者が突出して多く、59.8%に上る。以降は「ソフトウェア・通信」「医療・福祉」となっている。文系も、理系ほど志望者の割合は高くないが、最多は「メーカー」となり、「金融・証券・保険」「商社」と続いている（図9.3）。

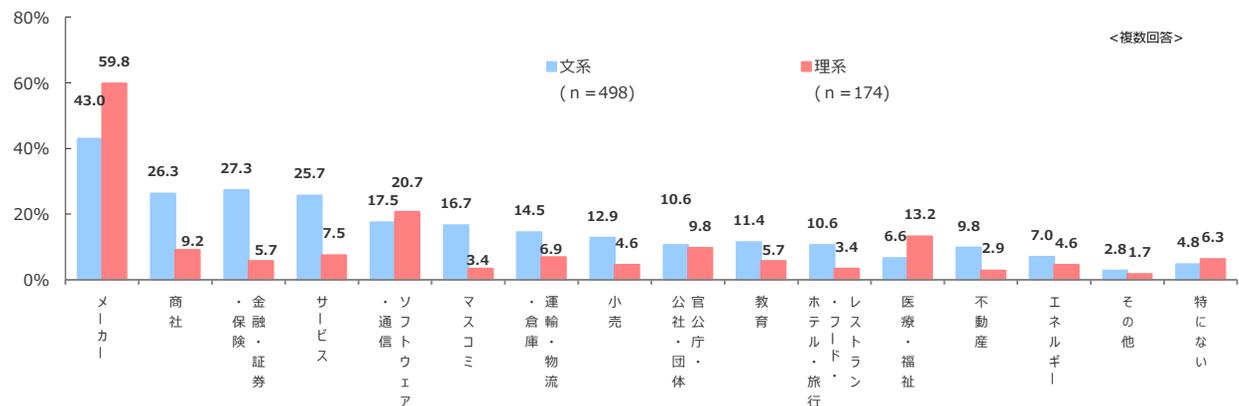
【図9.1】志望している業界はどこか



【図9.2】志望している業界はどこか：男女別



【図9.3】志望している業界はどこか：文理別



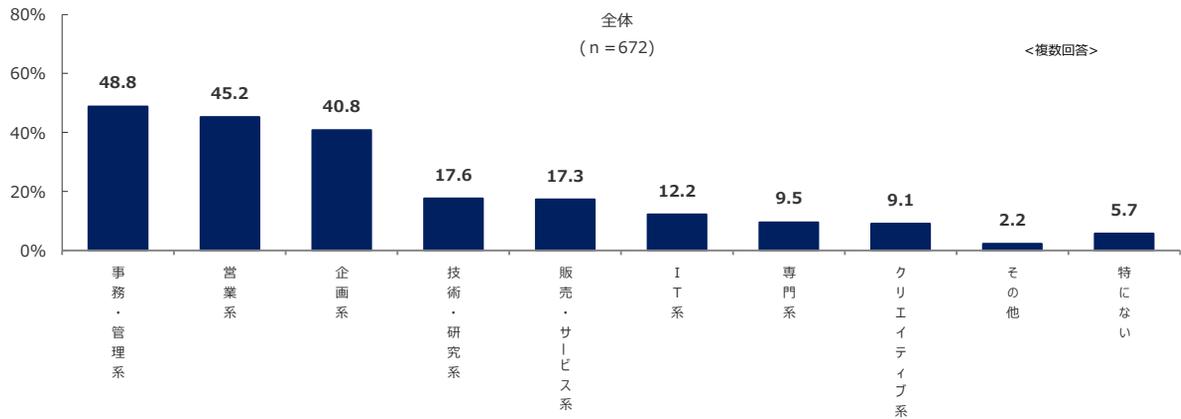
志望職種

学生に、志望職種について聞くと、「事務・管理系」が48.8%と最も多く、続いて「営業系」45.2%、「企画系」40.8%、「技術・研究系」17.6%の順となった（図10.1）。

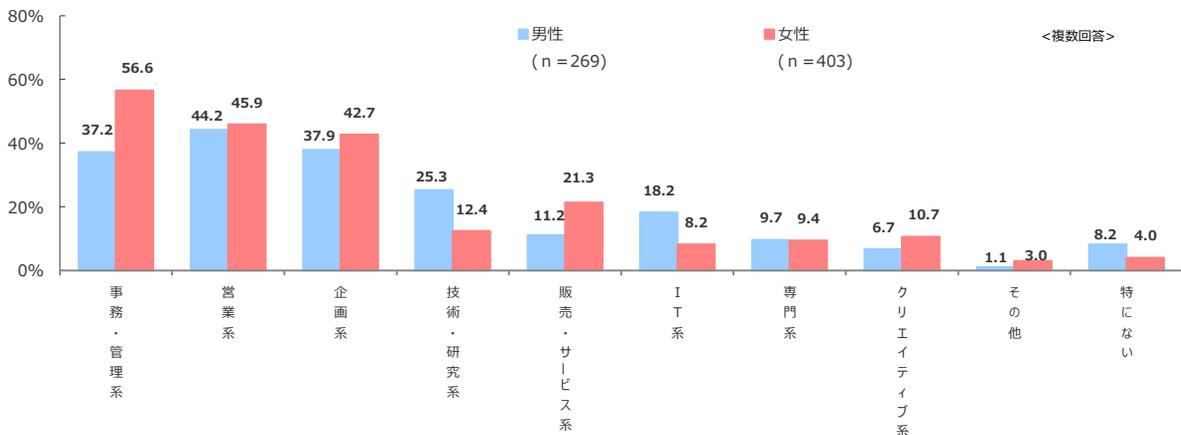
男女別に見ると、男性は「営業系」が最も多く、「企画系」「事務・管理系」と続く。女性は「事務・管理系」「営業系」「企画系」の順となっている（図10.2）。

文理別に見ると、文系は、「事務・管理系」「営業系」「企画系」の志望者が多く、理系は「技術・研究系」の志望者が突出している（図10.3）。

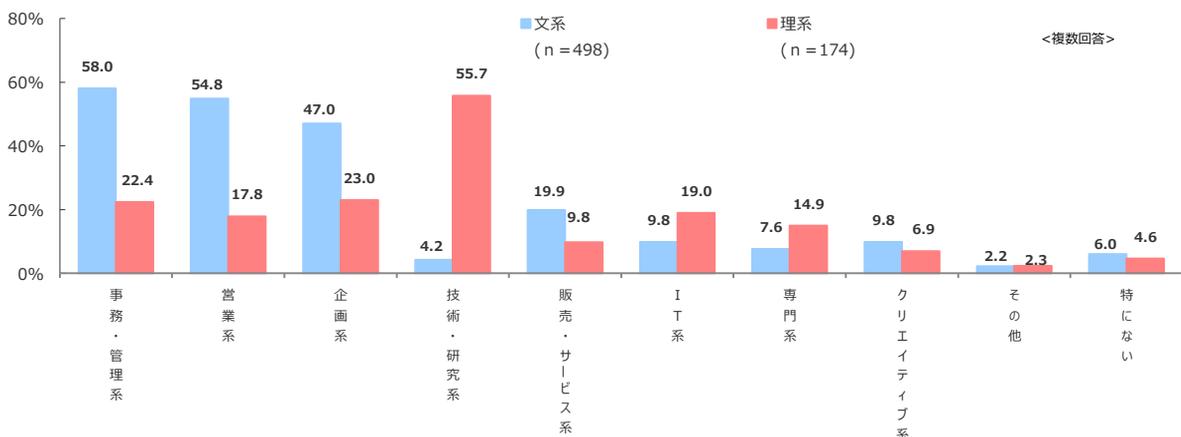
【図10.1】 志望している職種は何か



【図10.2】 志望している職種は何か：男女別



【図10.3】 志望している職種は何か：文理別

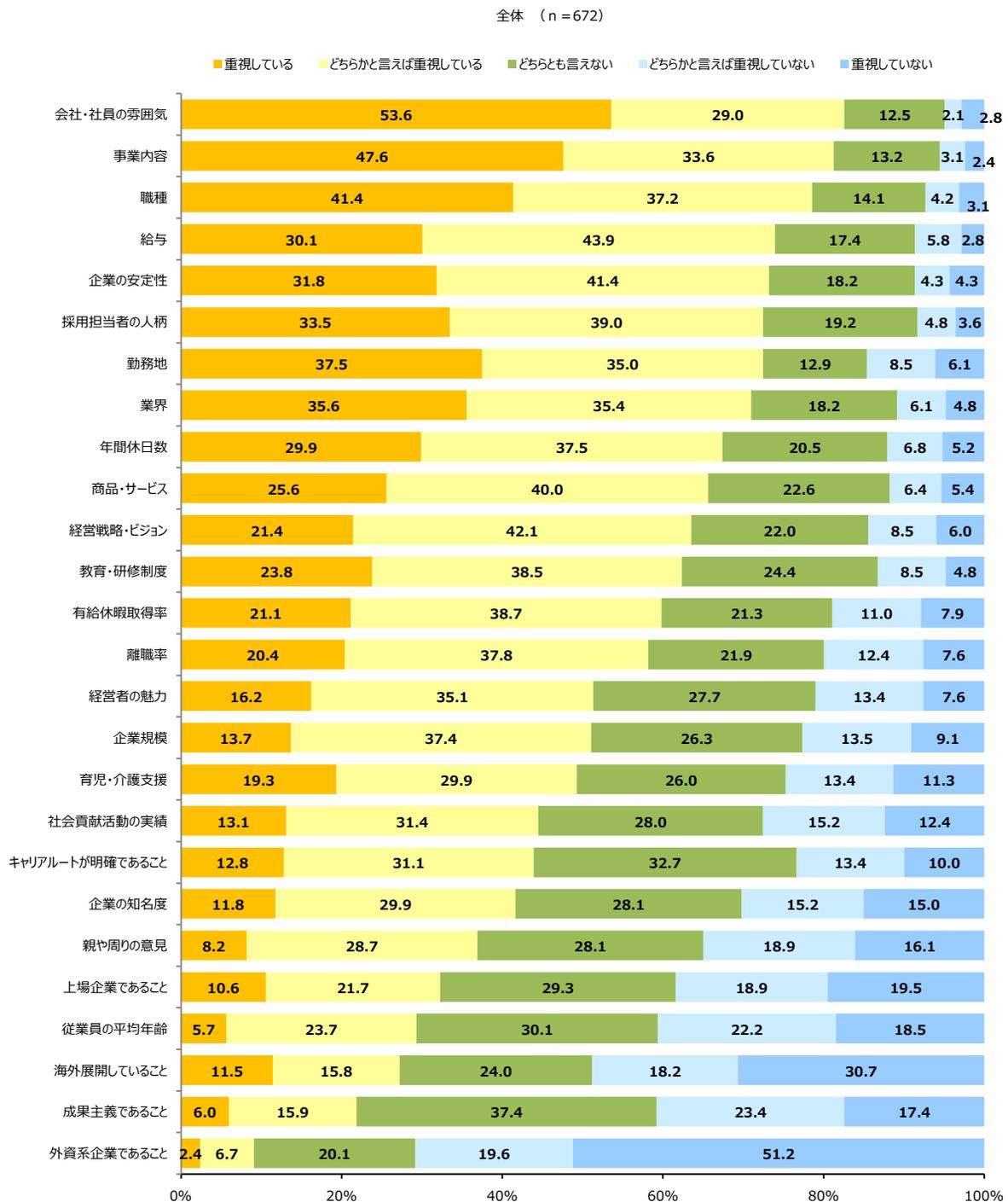


企業選定の際に重視するもの

学生に、志望企業を選定する際に、以下の26項目をどの程度重視するかを聞いた。重視度（「重視している」と「どちらかと言えば重視している」の合計／以下同）が高いのは、順に「会社・社員の雰囲気」「事業内容」「職種」「給与」「企業の安定性」だった。

反対に、非重視度（「重視していない」と「どちらかと言えば重視していない」の合計／以下同）が高かったのは、「外資系企業であること」「海外展開していること」「成果主義であること」「従業員の平均年齢」だった（図11）。

【図11】志望企業を選定する際に、以下の項目をどの程度重視するか

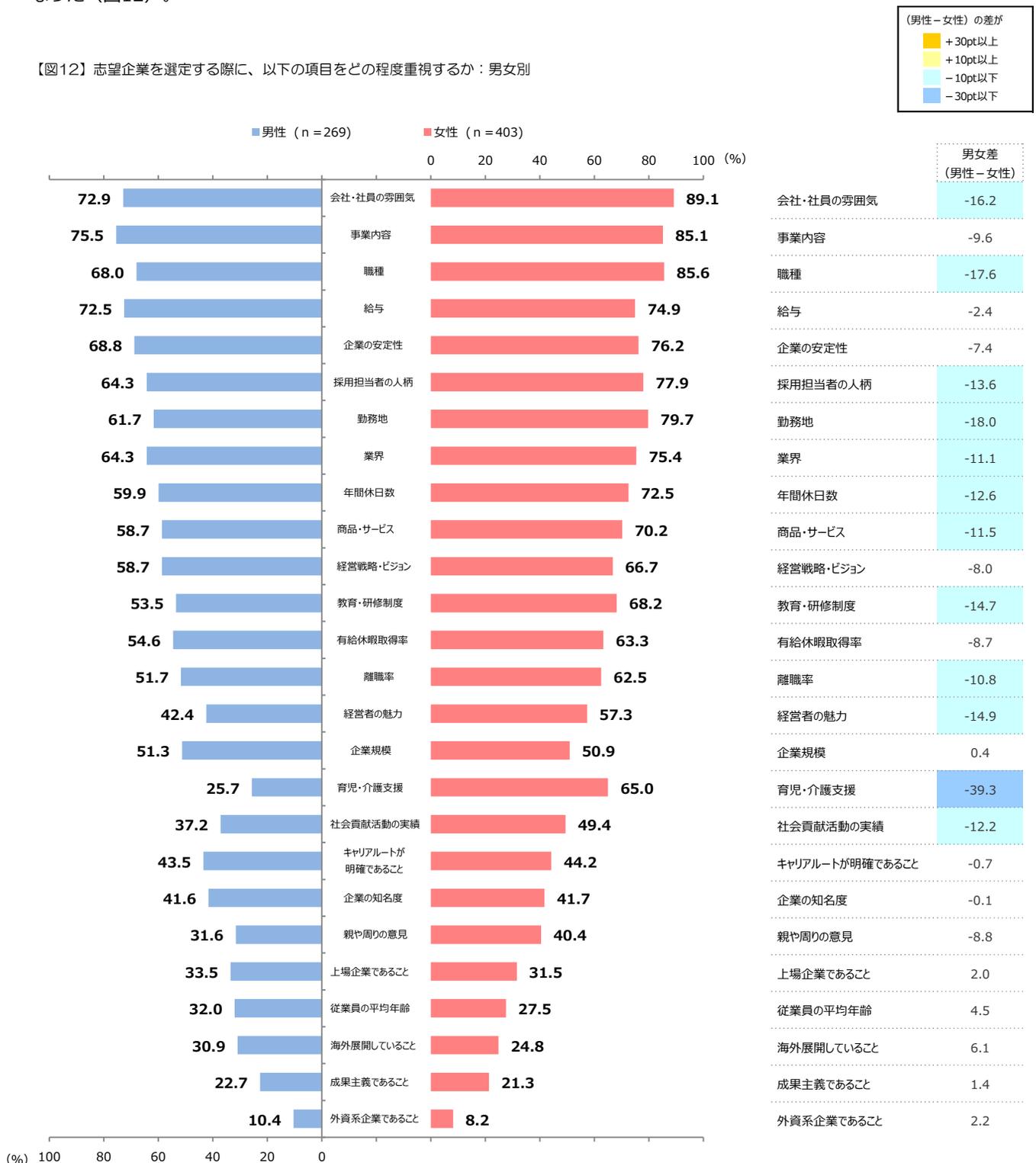


企業選定の際に重視するもの ＜男女別＞

学生に、志望企業を選定する際に、以下の26項目をどの程度重視するかを聞き、重視度を男女別に比較した。女性の方が、各項目において重視度が高い傾向にあるものの、“重視度が高い項目そのもの”は、男女であまり大きな違いは見られない。

男女で重視度が大きく異なっている項目を見ると、「育児・介護支援」（39.3ポイント差）、「勤務地」（18.0ポイント差）、「職種」（17.6ポイント差）、「会社・社員の雰囲気」（16.2ポイント差）で女性が男性を上回る結果となった（図12）。

【図12】志望企業を選定する際に、以下の項目をどの程度重視するか：男女別



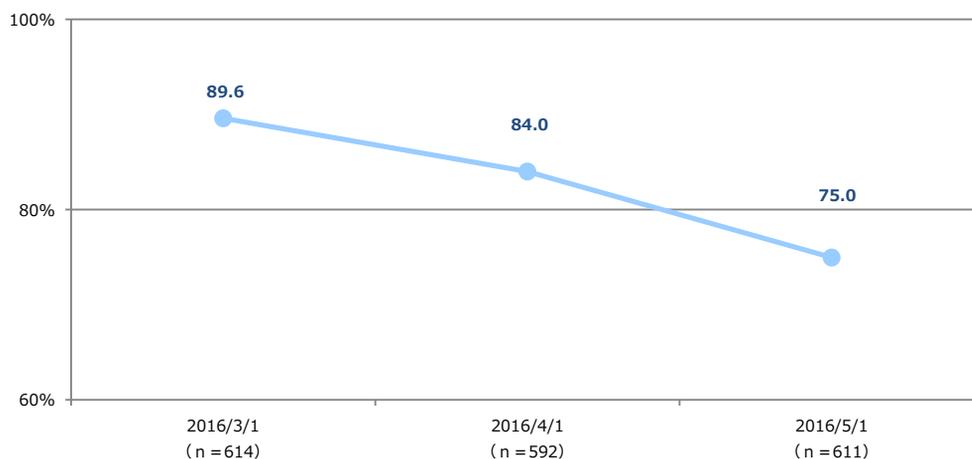
企業への新たな応募予定（5月）

「1 就職活動の進捗状況」において、「内定獲得／就活終了段階」「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、5月の就職活動において、新たに企業に応募する予定があるかを聞いた。「ある」と回答した学生が75.0%となり、前回調査より9.0ポイント減少した（図13.1）。

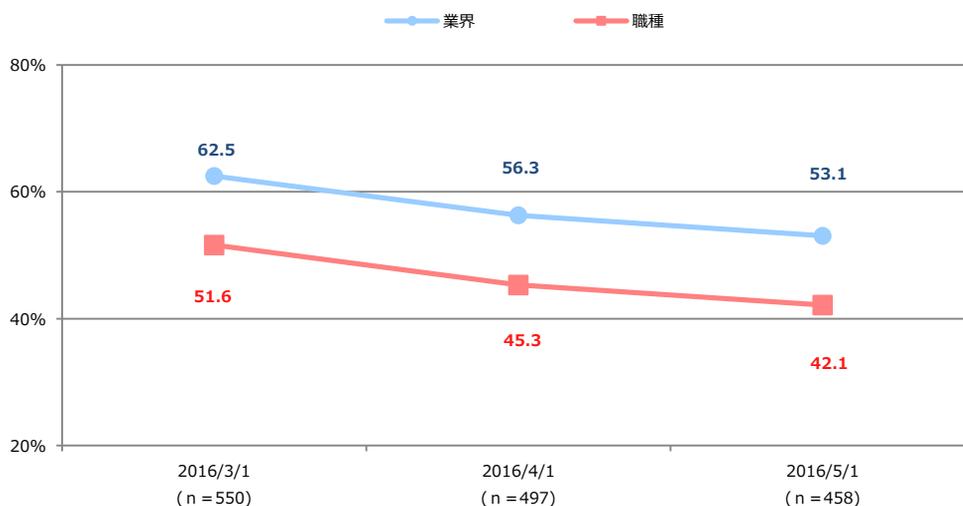
また、新たに応募する予定が「ある」と回答した学生に、今まで興味がなかった“業界”や、興味がなかった“職種”も応募しようと考えているかを聞いた。「（応募しよう）と考えている」と回答した学生の割合は、“業界”では53.1%、“職種”では42.1%となった。新たな企業に目を向ける際には、“職種”よりも、“業界”の視野を広げる学生の方が多いようだ（図13.2）。

時系列で見ると、新たに応募する予定が「ある」と回答した学生の割合は、就職活動が進むにつれ減少している。新たに応募する予定がある学生でも、今までとは異なる“業界”や“職種”に応募する意向の学生は減少しており、業界、職種の絞り込みが進んでいる様子がうかがえる（図13.1、図13.2）。

【図13.1】 今月、新たに企業に応募する予定がある学生の割合：時系列



【図13.2】 今まで興味がなかった“業界”や“職種”も応募しようと考えている学生の割合：時系列

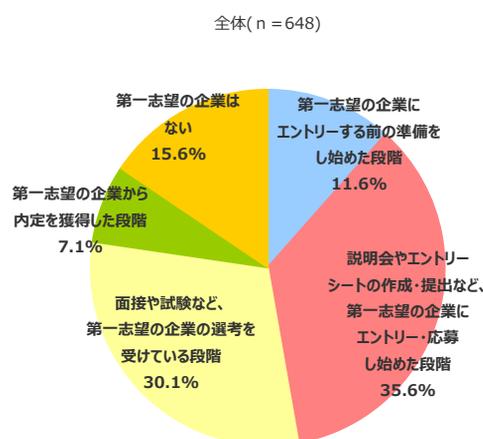


第一志望の企業の選考段階

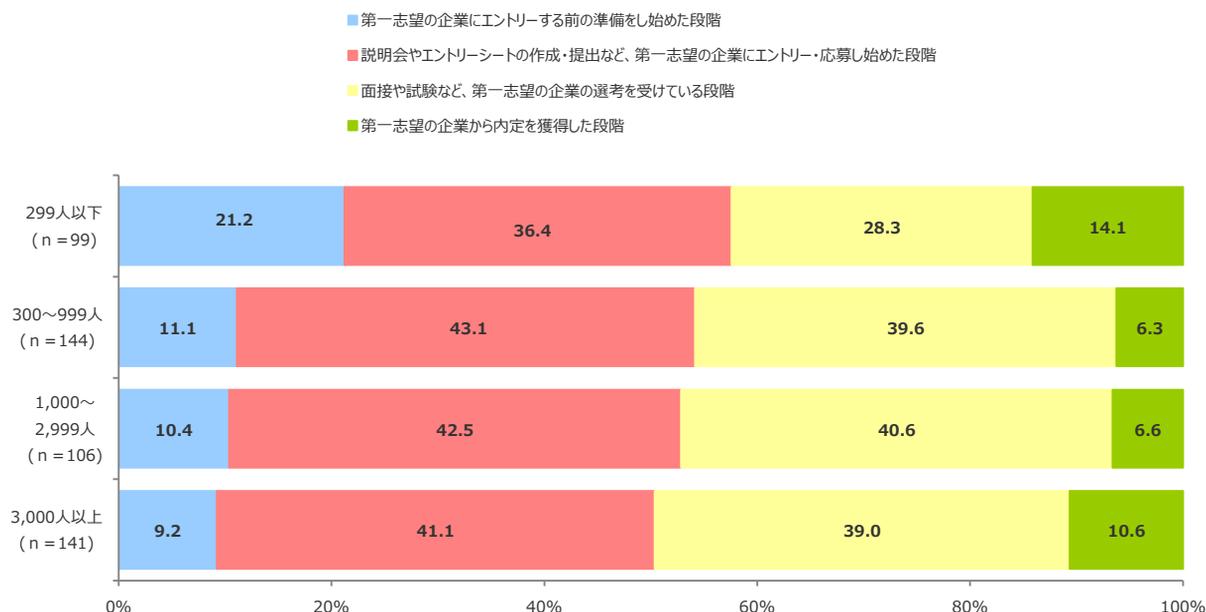
「1 就職活動の進捗状況」において、「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、第一志望の企業の選考はどの段階かを聞いた。最も多い回答は「エントリー・応募し始めた段階」で35.6%、次いで「面接や試験など、選考を受けている段階」が30.1%となった（図14.1）。

また、「15 第一志望の企業の従業員規模」で回答された第一志望の企業の従業員規模別に見た。299人以下の比較的小規模な企業を第一志望としている学生は、「エントリーする前の準備をし始めた段階」とする回答が、他の学生と比べ10ポイント以上高い。一方、「内定を獲得した段階」と回答した学生も多く、進捗の遅い学生と早い学生の二極化が見られる。全体的には、従業員規模が大きいほど、進捗が早い傾向にあるようだ（図14.2）。

【図14.1】第一志望の企業の選考はどの段階か



【図14.2】第一志望の企業の選考はどの段階か：第一志望の企業の従業員規模別
※「第一志望の企業はない」と回答した学生を除いて集計



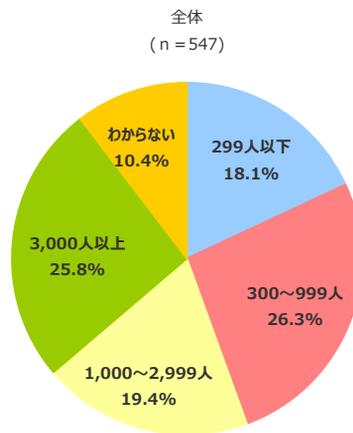
第一志望の企業の従業員規模

「14 第一志望の企業の選考段階」で「第一志望の企業はない」以外の回答をした学生に、第一志望の企業の従業員規模について聞いた。結果は「300～999人」と回答した学生が26.3%、「3,000人以上」と回答した学生が25.8%と拮抗している。「1,000人以上」（「1,000～2,999人」と「3,000人以上」の計）と、「1,000人未満」（「300～999人」と「299人以下」の計）に分けて比較しても「1,000人以上」45.2%、「1,000人未満」44.4%と、ほぼ同値となっている（図15.1）。

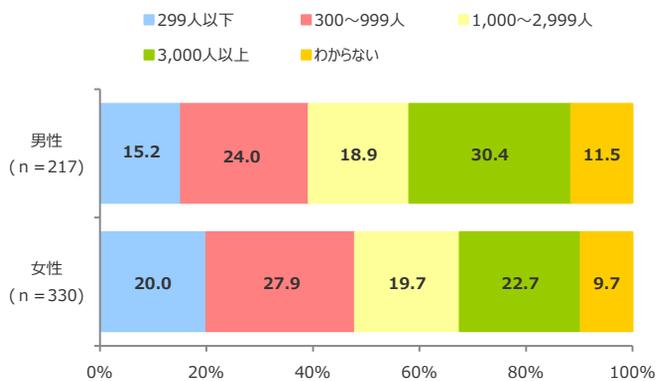
男女別に見ると、「1,000人以上」と回答した学生の割合は、男性が49.3%、女性が42.4%となり、男性が女性をやや上回った（図15.2）。

企業規模に対する志向別では、大企業志向の学生の41.8%が、第一志望の企業の従業員規模は「3,000人以上」と回答している（図15.3）。

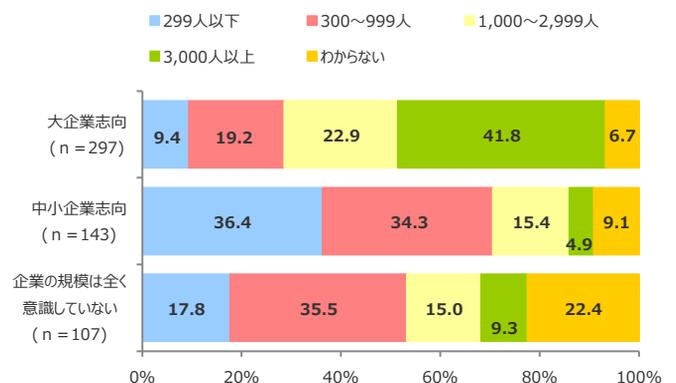
【図15.1】第一志望の企業の従業員規模



【図15.2】第一志望の企業の従業員規模：男女別



【図15.3】第一志望の企業の従業員規模：企業規模に対する志向別

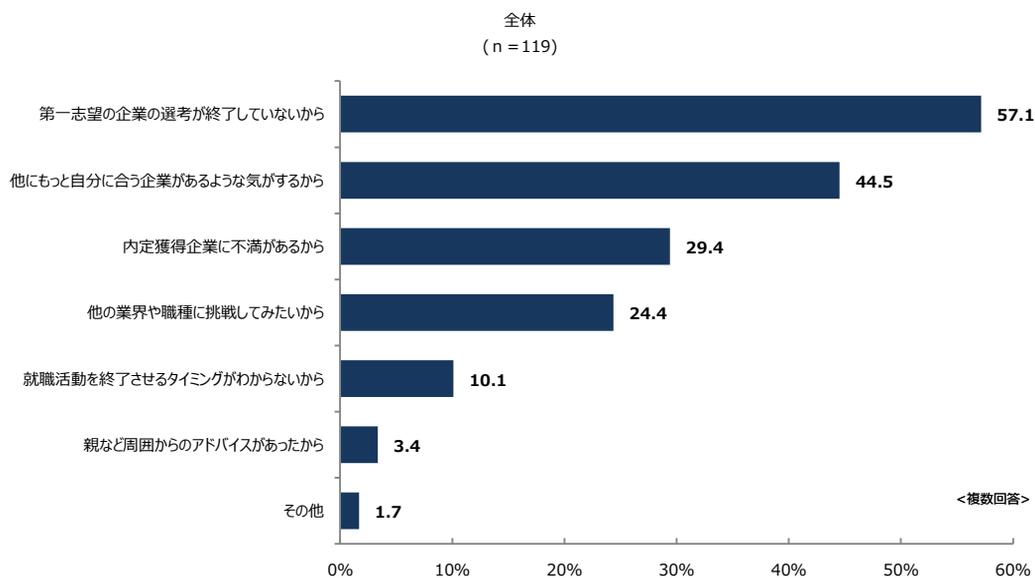


就職活動を継続している理由

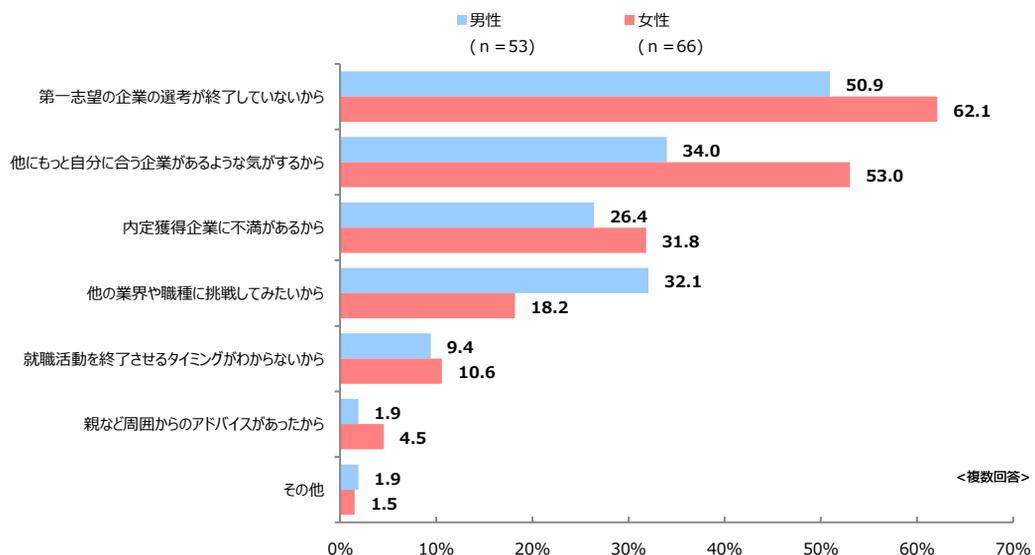
「1 就職活動の進捗状況」において、「内定獲得／就活継続段階」と回答した学生に対し、内定を獲得したにも関わらず、就職活動を継続している理由を聞いた。結果は、「第一志望の企業の選考が終了していないから」が最も多く57.1%、次いで「他にもっと自分に合う企業があるような気がするから」44.5%、「内定獲得企業に不満があるから」29.4%、「他の業界や職種に挑戦してみたいから」24.4%の順となった（図16.1）。

男女別に見ると、男女で最も差が生じている回答は「他にもっと自分に合う企業があるような気がするから」で、女性は男性よりも19.0ポイントも高い。一方、「他の業界や職種に挑戦してみたいから」は、男性の方が女性よりも高く、その差は13.9ポイントとなった（図16.2）。

【図16.1】内定を獲得したにも関わらず、就職活動を継続している理由



【図16.2】内定を獲得したにも関わらず、就職活動を継続している理由：男女別

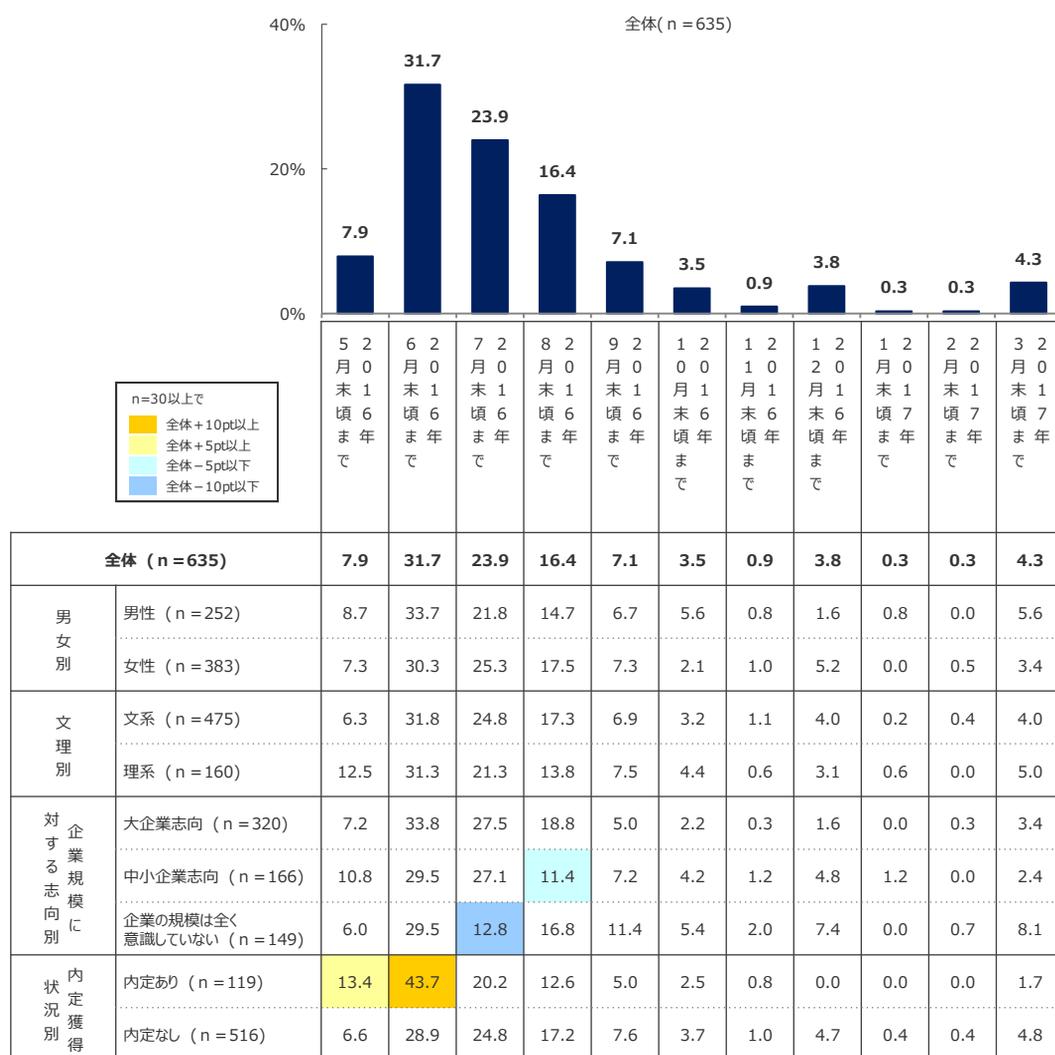


就職活動終了見込み時期

「1 就職活動の進捗状況」において、「内定獲得／就活終了段階」以外の回答をした学生に対し、現在までの就職活動の進捗を踏まえて、いつ頃までに就職活動を終わらせたいと考えているかを聞いた。最も多くの回答を集めたのは「6月末頃まで」で31.7%。次いで、「7月末頃まで」が23.9%、「8月末頃まで」が16.4%と続き、選考活動解禁後3カ月以内での終了を見込んでいる学生が全体の7割に達した。

また、内定獲得状況別に見ると、「内定あり」の学生の半数以上は、選考活動解禁直後の6月末頃までに就職活動を終えたい意向だ（図17）。

【図17】いつ頃までに就職活動を終わらせたいと考えているか



(%)

身につけている社会人基礎力

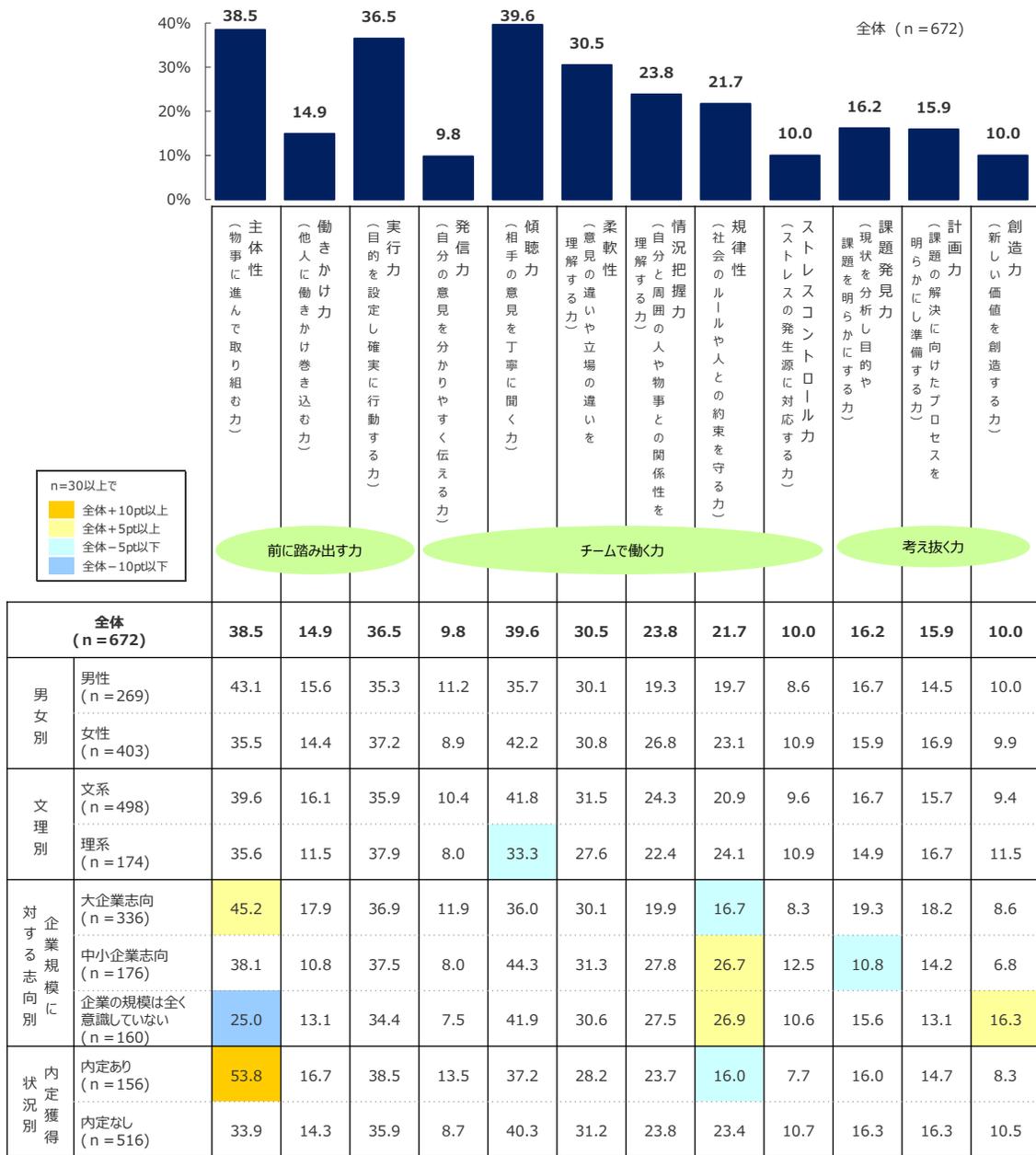
学生に、自身が身につけていると思う社会人基礎力を3つまで聞いた。最も多かったのは「傾聴力」で39.6%、次点は「主体性」で38.5%となった。

男女別に見ると、回答が多い順に、男性は「主体性」「傾聴力」「実行力」、女性は「傾聴力」「実行力」「主体性」となっている。

内定獲得状況別に見ると、「内定あり」の学生は「主体性」と回答する割合が全体よりも15.3ポイント高くなっている(図18)。

【図18】身につけている社会人基礎力

<複数回答>



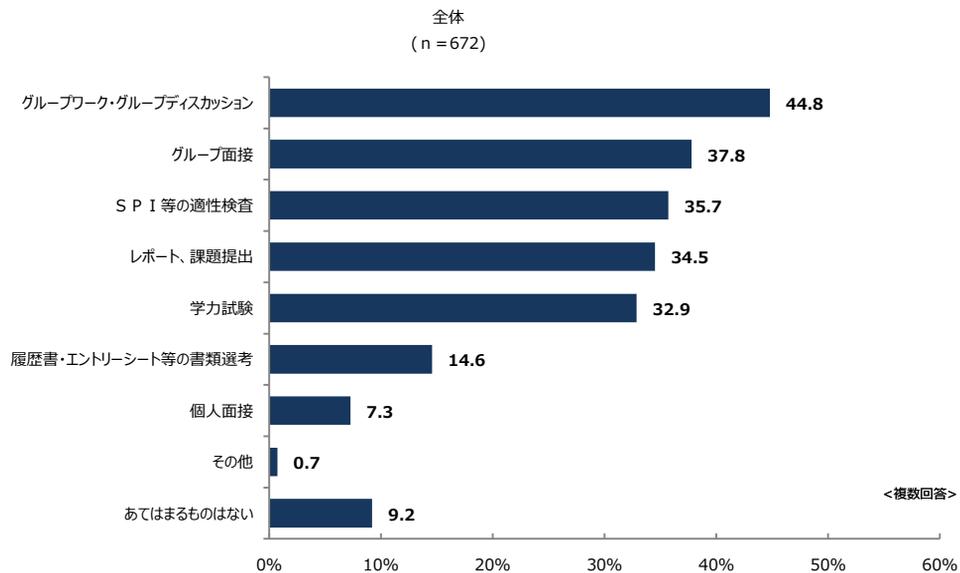
(%)

“できれば避けたい”選考方法

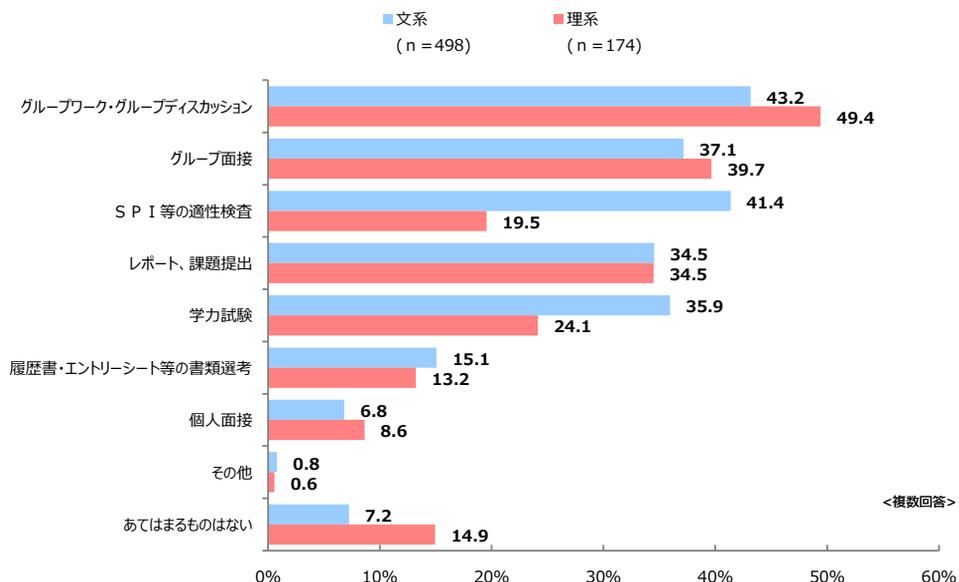
学生に、“できれば避けたい（受けたくない）”選考方法を3つまで聞いた。最も避けたい選考方法は、「グループワーク・グループディスカッション」44.8%で、約半数に達した。次いで「グループ面接」37.8%、「SPI等の適性検査」35.7%、「レポート、課題提出」34.5%、「学力試験」32.9%となった。他の応募者とのコミュニケーションが必要な選考方法や、筆記試験関連が“できれば避けたい”選考方法のようだ（図19.1）。

文理別に見ると、文系は理系に比べ「SPI等の適性検査」「学力試験」の回答割合が高く、筆記試験を通じて判断されることを嫌う傾向が強い。一方、理系は文系に比べ「グループワーク・グループディスカッション」「グループ面接」等、他の応募者とのコミュニケーションが必要とされる選考を嫌う傾向が見られる（図19.2）。

【図19.1】 “できれば避けたい” 選考方法



【図19.2】 “できれば避けたい” 選考方法：文理別



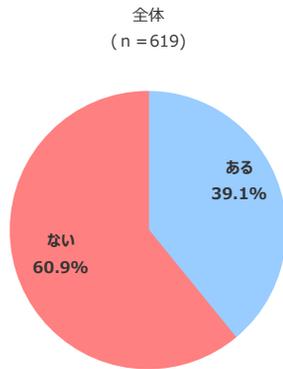
“記念受験”や“練習”のために 応募した企業はあるか

「5 応募企業数」において、企業の採用選考に1社以上応募している学生に対し、今まで応募した企業の中に、いわゆる“記念受験”や“練習”の企業があるかを聞いた。“記念受験”について「ある」と回答した学生は39.1%、“練習”について「ある」と回答した学生は66.7%となった（図20.1、図20.3）。

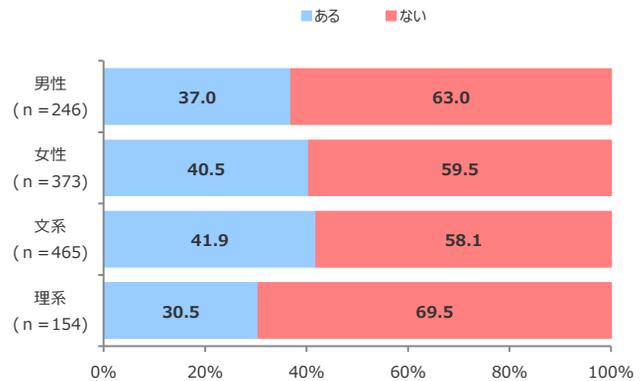
これを属性別に見ると、“記念受験”と“練習”のどちらにおいても、男女による差は少ない。文理別では文系の方が「ある」と回答する割合が高くなっている（図20.2、図20.4）。

記念受験：
合格の可能性は気にせず、有名な企業や自分が憧れている企業の選考を受けてみること

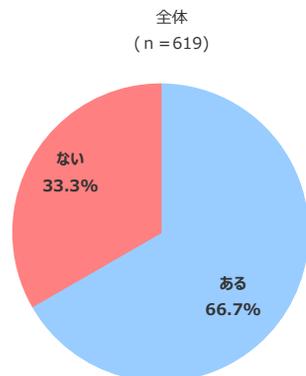
【図20.1】今まで応募した企業の中に“記念受験”の企業はあるか



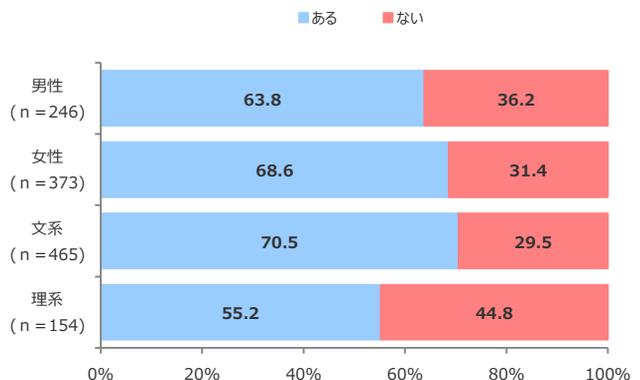
【図20.2】今まで応募した企業の中に“記念受験”の企業はあるか：属性別



【図20.3】今まで応募した企業の中に“練習”の企業はあるか



【図20.4】今まで応募した企業の中に“練習”の企業はあるか：属性別



「オワハラ」経験の有無

「1 就職活動の進捗状況」において、「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、「オワハラ」をされた経験があるかを聞いた。「ある」と回答した学生は全体の6.3%となった（図21.1）。

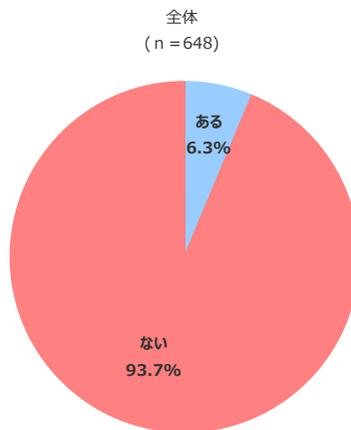
内定獲得状況別では、オワハラ経験のある学生は、「内定あり」で11.5%、「内定なし」で4.7%となった。「内定あり」に比べて少ないものの、「内定なし」でも、一定数の学生はオワハラを経験しているようだ（図21.3）。

オワハラ：

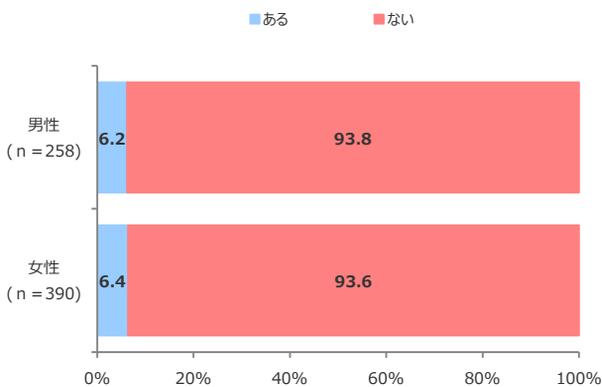
「就活終われハラスメント」を略した言葉。

企業の人事担当者が、就職活動中の学生に対し、他社への就活を終わらせて(内定を断らせて)、自社への入社を決断するように強要したり、嫌がらせをしたりする行為。

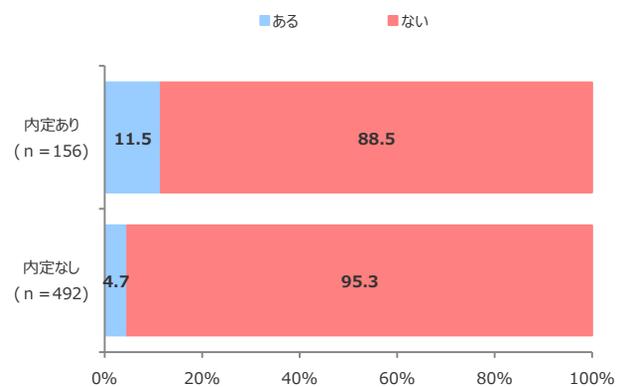
【図21.1】 「オワハラ」経験の有無



【図21.2】 「オワハラ」経験の有無：男女別



【図21.3】 「オワハラ」経験の有無：内定獲得状況別



就職活動での不安

「1 就職活動の進捗状況」において、「内定獲得／就活終了段階」以外の回答をした学生に対し、就職活動で感じる不安を聞くと、「交通費や就活グッズなどの費用がかかること」が55.9%で最も高くなった。続いて「内定が取れないかもしれないこと」54.2%、「自分の何を評価されるのかわからないこと」50.2%が上位となった。直近で同設問を聞いた調査（2016年2月1日状況）と比べると、各項目に対する回答割合が全体的に低下しており、就職活動を進めていくなかで、不安が解消されている様子がうかがえる（図22.1）。

男女別に見ると、全体的に、男性に比べて女性の方が不安を感じている割合が高い（図22.2）。

文理別に見ると、全体的に、理系よりも文系の方が不安を多く感じている傾向が見られる。一方で、「就職活動と勉強の両立が難しいこと」は理系が51.9%と、文系の36.2%に比べ大幅に高く、学業との両立を強く懸念している様子がうかがえる（図22.3）。

【図22.1】就職活動で感じる不安

【図22.2】就職活動で感じる不安
：男女別

【図22.3】就職活動で感じる不安
：文理別

